

第3回地層処分研究開発検討委員会議事録（案）

1. 日時場所

日時 ; 平成20年3月5日(水) 11:00~16:00

場所 ; JAEA 東海研究開発センター 地層処分基盤研究施設 大会議室

2. 出席者

(委員) 朽山委員長、朝野委員、出光委員、大江委員、小林委員、佐藤委員、鹿園委員、竹内委員、田中委員、長崎委員、増田委員、森山委員

(JAEA) 河田部門長、油井ユニット長、宮原GL、内藤GL、亀井GL、虎田主幹 他

3. 配付資料

資料第3-1号 第2回地層処分研究開発検討委員会議事録（案）

資料第3-2-1号 地層処分基盤研究における平成19年度の成果と平成20年度の計画概要－全体概要－

資料第3-2-2号 地層処分基盤研究における平成19年度の成果－工学技術開発について－

資料第3-2-3号 地層処分基盤研究における平成19年度の成果－性能評価研究について－

資料第3-3号 TRU廃棄物の地層処分研究開発について

4. 報告概要

- 1) 委員会の席上、朽山委員が委員長に選出された。
- 2) 第2回地層処分研究開発検討委員会議事録について承認を得た。
- 3) 工学技術開発、性能評価研究およびTRU廃棄物の処分研究に係る個別課題について、これまでの成果と今後の計画について説明し、研究計画策定の考え方や研究の進め方について議論した。

5. 審議結果の概要

議事次第の説明案件ごとに質疑応答および議論の時間をとり、委員からのご意見を頂いた。分野ごとの主な意見を下記に示す。

- 1) 地層処分基盤研究に関する全体概要について
 - ・ 地層処分研究開発の成果について、専門家だけでなく一般国民に分かりやすく説明し社会への定着を図るとともに、理解促進活動の戦略をオールジャパンで立てていくべきである。その辺を整理した上でのJAEAとしての活動が必要である。
 - ・ JAEAの成果を知識ベースとして実施主体や規制側に提示する際は、知識マネジメントシステムの最終的な仕上がりを念頭に置き、ユーザーが判断できる形態で成果を体系的に揃えていくべきである。

- ・ 本委員会では、地層処分技術に係る研究開発全般に関する議論が多い。今後は地層処分研究開発に係る議論に焦点を絞るなど、委員会の役割を今一度確認しつつ明確にすべきである。
- ・ 現在は軽水炉からの廃棄物が蓄積してきたところ、その延長線に MOX などの高燃焼度の廃棄物が出てきている状況にある。今後は高燃焼度化に対する処分概念及び性能評価技術の開発が必要であり、本委員会でも議論していく必要があるのではないか。
- ・ 実施主体が行う概要調査以降の各技術開発が、重要な意味を持つと外部から評価して頂くためには、各機関との連携や役割分担が重要であり、成果と評価との整合性を示していく必要がある。JAEA にはそのために必要な提言がほしい。

2) 処分研究に係る個別課題

- ・ 最大 2mm というオーバーパック (OP) の腐食量が、OP の健全性や処分場の設計にどのような影響を与えているのか、具体的に提示すべきである。[工学技術開発]
- ・ パラメータの不確実性について、決定論的なものか、それとも確率論的な取り扱いなのか。知識が不足しているものについては、確率論は使えず、わからないことの影響 (知識の不確実性) についても評価すべき。[性能評価研究]
- ・ FepMatrix というツールの妥当性はどのように示していくのか。一般的な分野にも活用することにより、有効性について確認をすること。[性能評価研究]
- ・ TRU 廃棄物について、JAEA はトータルとしてどのような研究が必要かを考えるべきである。処理側と調整を行い、HLW と整合性を保ちつつ、事業者と連携しつつ抜け落ちのある研究開発項目を補完しつづける必要がある。[TRU 廃棄物処分研究]

6. 委員会での審議結果の処置等について

個々の研究課題についての指摘については、平成 20 年度の計画実施に迅速に反映させるとともに、地層処分に関する研究開発全体として平成 21 年末を目途とした成果の取りまとめに向けて、指摘事項を踏まえた計画、実施をはかる。

本委員会は次年度以降も開催を計画し、適宜機構の地層処分研究開発へのご意見、議論を頂くものとする。

以上